

インフォメーション

すべてのお申し込み・お問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp
メールでお申し込みの際は、件名を各イベントタイトルとして、氏名・年代・住所・電話番号をお知らせください。

サポセンスタッフから

「ご来場ありがとうございました。」

11月3日(木)～11月6日(日)に開催した「マチノWEEK まちづくりのアイデアに触れる、交わる、考える」が無事終了しました。様々な団体と連携し、4日間で17企画を実施。約1,100名の方々にお越し頂きました。連日実施していた交流会では、企画を越えた出会いやつながりが新たに生まれました。

「マチノワ」という言葉は、「まちに暮らす多様な主体の力を活かし合える、人と人、人とまちのゆるやかなつながり」を意味する造語です。マチノWEEKで生まれたまちづくりのアイデアの種が、分野や地域を越えて芽吹き、未来に向けたアクションとして、まちを豊かに育むことを願います。

サポートセンターは、これからも市民のまちへの思いを形にする支援を行うとともに、多くの支援機関等とも連携しながら、「マチノワ」を育む場として機能していきたいと思っております。この度は、ご参加ご協力頂き、誠にありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願致します。(センター長 菊地)

17企画の報告は、サポセンのブログをご覧ください！



年末年始休館期間の貸室申し込み手続きについて

◆1月4日(水)にお受けできる貸室のお申込み
年末年始休館期間(12月28日(水)～1月3日(火))に受付開始となる申込みは、1月4日(水)から受付開始となります。なお、受付開始日に当たる貸室の、お電話等での申込み予約については、午後2時以降になります。詳しくはお問い合わせいただくか、サポセンホームページをご覧ください。

サポセンスタッフから

「仙台ちょっとまち歩き 市民活動の現場におじゃまします！」

普段の生活では気がつかずに通り過ぎているかもしれない市民活動の現場を巡る、大人の社会見学です。現場を見るだけでなく、実際に活動者のお話も聞くことができます。ぜひご参加ください。(村上)
日 時:2017年1月28日(土) 午前10時半～午後1時半
訪問先:太白区長町エリアの活動現場
※詳しくは、サポセンホームページをご覧ください。
参加費:400円(ドリンク代として)
定 員:10名



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日：12月14日(水)・28日(水)
年末年始の休館日：12月29日(木)～1月3日(火)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog] http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo
仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが仙台の市民団体を取材しに行きます！
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/writer>

情報ボランティア@仙台の学生記者がワクワクビトを取材しています！
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16>

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート] サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2016年12月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 葛西 淳子 松村 翔子 黒川 夕紀
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 12

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2016 No.208

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

海辺の

今月の
ワクワク
ビト
海辺の図書館
しょうじ たかひろ
庄子 隆弘 さん (43)

蔵書は地域のすべて
人の輪広げ、被災地を再生

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた若林区荒浜地区は、災害危険区域に指定され住宅の再建はできません。それでも、生まれ育った人にとっては唯一の故郷。荒浜出身の会社員庄子隆弘さんは、時には人が集う機会を作ろうと「海辺の図書館」と称した活動を2014年6月から続けています。住民一人一人の辛い被災体験も、震災前と変わらず美しく水平線を染める朝日も、荒浜の地域資源全てが「蔵書」という発想です。そんな蔵書の一冊一冊を紹介するように、週末を中心にイベントを実施。現地を散策するツアーや音楽鑑賞会など、多様なメニューで多くの人に足を運んでもらおうと努めます。人が集って対話することは読書と同じ学びにつながるだけでなく、人のぬくもりを確かめ合う大切な時間と捉える庄子さん。「辛い時期も、氣遣ってくれる人がいたから前を向けた」と、絆の力を噛みしめます。図書館がつなぐ人の輪が、荒浜の明日を創る。故郷の未来が笑顔であふれることを願い、庄子さんは荒浜の新たなページをめくります。

取材・文 加藤 里香(宮城学院女子大3年)

海辺の図書館

HP <http://umibe.org/> Mail info@umibe.org

本がない図書館。そんな風変わりな「海辺の図書館」はこの秋、東北の被災3県で復興に挑む人を顕彰する第5回「東北みらい賞」(東北みらい創りサマースクール実行委員会主催)を受賞。「活動は斬新で、取り組みの継続を願いたい」と評価されました。海辺の図書館は、村上春樹さんの著書「海辺のカフカ」に由来します。図書館での会話を通じ心の傷を癒やしていく少年を主人公とした物語。庄子さんはそんな図書館の力を故郷・荒浜の再生につなげたいと願い、名付けました。イベントの開催予定などはホームページで確認ください。

特集

仙台のまちで生きる

トウホクサンショウウオ

知ることが、守ることにつながっていく

仙台のまちで生きるトウホクサンショウウオ 知ることが、守ることにつながる

仙台は「杜の都」と呼ばれるように、開発され都市化した部分と豊かな自然とが共存しているまちです。仙台のまちには人間ばかりではなく、動物・植物など、たくさんの生きものが暮らしています。身近な生きものを守ろうと頑張る高校生と、それを応援する専門家の取り組みを紹介します。



仙台城南高等学校 自然科学部



仙台うみの杜水族館
あいざわまさのり
相澤真哲 さん

仙台うみの杜水族館

身近なところに目を向ける

仙台市太白区にある城南高校の敷地内で、ある卵が見つかり、自然科学部のもとにやってきたのは、2013年のこと。図鑑やネットで調べて、準絶滅危惧種に指定されている「トウホクサンショウウオ」の卵だと分かりましたが、残念ながらその卵は孵りませんでした。翌14年も卵が見つかり、前年の反省から温度管理に注意したところ、孵化に成功。2歳になった今では11cmほどに成長しました。

自然科学部では、トウホクサンショウウオのことを調べ、エサとなる虫を捕まえて与えたり、水温管理に注意したり、一生懸命世話をしてきました。生きものが、自分たちの身近なところで懸命に生きていたことを知った自然科学部の部員たち。次第に「自分たちで育てるだけでなく、守ってほしい」という思いが強くなっていきました。

自然科学部では、毎年春に1年間の活動テーマを自分たちで決めて活動しています。16年度は、これまでの飼育活動から保護活動へと、活動を発展させることに決めました。ただ、トウホクサンショウウオについては、まだまだ分からないことが多く、保護活動もどのように始めれば良いのかわかりませんでした。そんな時、部の顧問である中野

智保先生が、インターネットで仙台うみの杜水族館にトウホクサンショウウオがいるという情報を見つけました。そこで、トウホクサンショウウオの飼育や保護について教えて欲しいと水族館にお願いしました。

知ること、守ることの第一歩

宮城県内の両生類に詳しい水族館の相澤真哲さんは、部員たちが試行錯誤しつつも孵化させ飼育してきたことに感心し、「自分の知識や経験が役に立つならば、協力したい」と、部内の勉強会で講師を務めました。トウホクサンショウウオのことだけでなく、それが生きている環境をしっかり調べて、計画的に保護活動を進めること、人間が一度保護した動物は、簡単に自然に戻せないこと。専門家である相澤さんの話は、初めて知ることばかりで、部員たちは「知ること」の大切さを学びました。

トウホクサンショウウオは、東北に生息する生きものですが、認知度は高くありません。けれど、保護のためには多くの人に知ってもらうことも必要です。そこで、文化祭や市民センターまつりでの活動発表に加え、夏休みには子ども向けに体験型ワークショップを企画しました。トウ



■連絡先
仙台城南高等学校 自然科学部 TEL: 022-305-2111 URL: <http://sendai-johnan.ed.jp/>
仙台うみの杜水族館 TEL: 022-355-2222 URL: <http://www.uminomori.jp/>

ホクサンショウウオのイラストに色を塗りモビールを作る中で、成長段階を知ることができます。実物も見てもらい、その生態や数が少なくなっていることも紹介。「かわいい」「わかりやすく、楽しかった」と好感触でした。

みんなで守って、次世代へと引き継ぐ自然

身近な生きものに目を向け、守ろうとする高校生たちは、水族館にとっても嬉しい存在です。また、環境保全や、それに取り組む地元人材の育成は、水族館の取り組みのひとつです。「今後も必要とされるなら、出来る限り応えていきたいです」と相澤さん。今度実施される自然科学部のフィールドワークに同行する予定です。

環境を守るには生態系への理解が欠かせません。地元の豊かな自然を守ろうとする若者と、守ろうとする人を支える専門家がともに取り組むことで、仙台の豊かな自然環境が次世代へと継承されていきます。(取材・文 菅野祥子)



高校生が地域の情報を発信します！ まいぶろかべしんぶん部

「まいぶろかべしんぶん部」は、宮城野区中央市民センターの若者社会参画型学習推進事業です。2015年にスタートし、今年、尚綱学院高等学校インターアクト部から11人が挑戦中です。地域のお祭りで奮闘する人を取材したり、仙台うみの杜水族館の生きものについて記事を書いたり、デザイナーにキャッチコピーのつけ方を教わったり。壁新聞づくりを通じて地域で様々な大人と出会いながら、自分たちの力を発揮しています。お問い合わせ: TEL 022-791-7015(宮城野区中央市民センター)



▲昨年参加した大学生が高校生をサポートしています。

「街」と「人」を見守る、街頭パトロールの公益社団法人日本駆け込み寺仙台支部

「こんばんは」と道行く人々に声を掛けながら、仙台の繁華街をパトロールしている集団がいます。そろいグリーンビブスの

背後には、「国分町駆け込み寺」の文字。活動を行っているのは、日本駆け込み寺仙台支部。DV、モラハラ、家庭内暴力、虐待、ストーカー、ひきこもりなど、自殺を考えるほどの人生のトラブルを抱える方々の相談支援をしている団体です。活動の一環として、街頭パトロール活動を行っています。

パトロールの主な目的は、街の防犯や青少年や高齢者などの見守りです。毎月1〜2回、19時〜20時までの1時間程度、事務所がある国分町の繁華街から、アーケード商店街、仙台駅周辺を巡回します。道行く人に声を掛けられることも多く、駆け込み寺の活動を周知する一助にもなっています。

「悩みを抱えている人に私たちの存在を知ってもらい、一歩踏み出すきっかけになってほしい」と、支部長の中島一茂さん。街を歩き交う人々の中に困っている人がいないかと思いを寄せ、街の様子を気遣う人がいる。仙台のまちは、そんな人々に支えられているのだと実感しました。



▲パトロールの途中にサポセンに立ち寄り、情報交換をする中島一茂さん(写真中央)

パトロールには、18歳以上であれば誰でも参加できます。初めての参加者には、事前に活動の目的、パトロールの仕方や注意点など説明がありますので、経験がなくても無理なく活動ができます。街を見る視点が、少し変わるかもしれません。

■連絡先
公益社団法人日本駆け込み寺仙台支部
〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-12佐正第二ビル3F
TEL 022-395-7740 FAX 022-395-7742
Mail kokubuncho@nippon-kakekomidera.jp
HP <http://www.kokubunchokakekomidera.com/>

お役立ち本 CSV時代のイノベーション戦略

CSV (creating shared value) とは、「経済的価値を創造しながら社会的ニーズに対応することで社会的価値をも創造する」という視点の経営モデルです。CSVの先進事例について分かりやすく解説し、社会課題の解決による、より良い社会創りにはNGOやNPOが重要な役割を担うことが強調されています。ビジネスの目的は利益の追求ではなく、社会への貢献であり、利益は結果の一部に過ぎないという新しい時代を感じさせる一冊です。



お役立ち本 サンタになって、子ども達に夢と未来を届けよう。NPO法人チャリティーサンタ仙台支部

経済的理由などで「サンタの来ない子ども」がいます。NPO法人チャリティーサンタは、サンタになって子ども達に「プレゼントと夢」を届けています。仙台市近辺の家庭にプレゼントを届けるボランティア活動に参加しませんか。事前講習会があります。問い合わせは下記まで。活動日時: 12月24日(土)午後1時〜午後9時 募集締切: 12月20日(定員あり) HP <http://www.charity-santa.com> Mail sendai@charity-santa.com Facebook @Charitysanta.sendai

